

沖縄県公安委員会定例会会議録（令和8年5月14日）

1 主な報告等

(1) 令和8年初任科生による野外総合訓練の実施結果及び一般職員初任科第31期の卒業式の挙行について

警察本部から「4月30日に初任科生による野外総合訓練を実施した。同訓練では辺戸から警察学校までの84kmを21区間に分け、駅伝方式で行い、学生の走行距離は平均44.7kmであった。また、4月28日に一般職員初任科の卒業式を行った。」旨説明があった。

公安委員から「走り切った初任科生の感想はどのようなものがあったか。」旨発言があり、警察本部から「初任科生からは「きつい訓練を乗り越えることで成長できた。」という声があり、初任科生の保護者から「成長して、別人のようだ。」との感想があった。」旨説明があった。

(2) ゴールデンウィーク期間中の水難事故防止対策の実施について

警察本部から「ゴールデンウィーク期間中の水難事故は減少したが、本年4月末現在の水難事故発生件数は31件（前年同期比3件増）、被災者数は48人（前年同期比17人増）、死者数は8人（前年同期比5人減）となっている。今年の水難事故の特徴は、外国人観光客による事故とサップの事故が急増していることが挙げられる。ゴールデンウィーク期間中の水難事故防止対策として、4月20日に沖縄県水難事故防止推進協議会を開催したほか、那覇空港における関係機関との広報啓発や海上パトロール、管理者対策として量販店に対するスノーケルと救命胴衣の併売促進を行うなどの取組を行った。」旨説明があった。

公安委員から「県警の水難事故防止に対する取組は完成形に近づいていると思う。他機関との協議会や販売店への働きかけ、事業者への指導など、よくやっている。」旨の発言があった。

公安委員から「今後、外国人の観光客にどう伝えていくかが問題かと思う。外国人観光客の宿泊するホテルでのアナウンスやQRコードを読み取ってもらう仕組みがあれば外国人観光客に手軽に情報が伝わるのではないか。」旨発言があり、警察本部から「インバウンド対策として、アナウンスも多言語で行っているところだが、今後も外国人に伝わるアプローチを検討していく。」旨説明があった。

(3) 直轄警察犬による活動状況等について

警察本部から「直轄警察犬の活動件数について、昨年は299件で過去5年間の平均は322件となる。主な活動としては、刑法犯や行方不明事案における追跡・捜索活動などで、捜査支援が全体の約2割、認知症や未帰宅児童などの捜索が約8割となる。令和8年中は、2月9日の本部署管内での自殺企図者の発見保護、4月10日の那覇署管内での行方不明者の発見保護があった。現在、直轄警察犬は3頭の三交代制だが、今後新規警察犬を導入予定であり、三交代制に加え、4頭目を日勤運用することで体制を拡充していく。」旨説明があった。

公安委員から「警察犬も警察の総合力を支える一角であり、警察犬が警備現場に鎮座しているだけで効果がある。また、昨今デジタル化が進んでいる中で、「匂

い」の分野では警察犬の活躍の場があるのだろうと思う。」旨発言があった。

公安委員から「警察犬を使う判断はどのようにしているのか。」と発言があり、警察本部から「基本的に署長指揮で判断している。警察犬による活動の約8割が認知症等での行方不明事案だが、警察犬を投入したかどうかは、捜索願を出した家族からすると、警察が捜索に全力を尽くしてくれていると思ってもらえる面もあることから、可能な限り原臭を確保して、警察犬を要請することとしている。」旨説明があった。

公安委員から「警察犬はハンドラーとペアで活動し、警察犬も担当職員も非常に厳しい勤務と感じた。」旨発言があった。

(4) 令和8年春の全国交通安全運動の実施結果について

警察本部から「ゴールデンウィーク期間中の人身事故は85件（前年同期比12件減）発生し、1名が亡くなっている。また、物件事故は2,114件（前年同期比166件増）発生している。逮捕者は20人で、その内訳は飲酒運転が17人、無免許運転が3人であった。同期間中に白バイによる北部ツーリング対策や夜間二輪車の暴走行為、四輪ドリフト行為の取締りを行い、暴走行為7件を検挙した。同期間中の渋滞発生状況については、主要交差点で1km以上の渋滞が見られた。」旨説明があった。

公安委員から「北部ツーリング対策を行ったとのことだが、効果はどうか。」旨発言があり、警察本部から「交通取締りだけでなく、ツーリングが行われる幹線道路において駐在所員の警戒（見せる活動）も行うことで事故防止が図られた。」旨説明があった。

公安委員から「人身事故が減少した一方、物損事故が増加している理由は何か」旨発言があり、警察本部から「レンタカーによる駐車場内での事故や物に衝突する事故が多かった。また、レンタカー事故は、那覇や宮古島、北谷といった観光地が多いのが特徴である。」旨説明があった。

(5) その他

警察本部から「今年も1/3が経過したが、これまでの事件事故を統計的にみるマクロ的分析と、個別事案を深掘りするミクロ的分析を併用して分析を行い、年間を通して事件事故を抑止していきたい。」旨説明があった。

2 主な決裁等

(1) 警務部

- ・ 公安委員会宛て苦情の受理について
- ・ 公安委員会宛て意見・要望について
- ・ 警察署協議会委員の解嘱及び委嘱について（2件）
- ・ 行政手続法等の一部改正に伴う沖縄県公安委員会関係規程の整理に関する規程について
- ・ 「デジタル原則に照らした規則の一括見直しプラン」を踏まえた沖縄県公安委員会関係規則の整理に関する規則について
- ・ 裁決書の事前説明について
- ・ 九州管区公安委員会連絡会議第44回定例会の資料作成について

- (2) 生活安全部・地域部
 - 公安員会宛て苦情の調査結果について
- (3) 交通部
 - ・ 自動車運転免許の行政処分について
 - ・ 弁明書の作成について